

子供たちを健やかに育てるために

非行と親の姿勢

馬 淵 理 さん
(字八幡沢岱)

五月五日は子供の日です。子供たちを心身ともに、たくましく健やかに育てることは、私たち大人の責任です。しかし、子供たちを取り巻く環境は年々複雑・多様化しており、また非行やいじめなども続出し大きな社会問題となっております。そこで、長い間婦人補導員として活躍され、この三月で退職されました馬淵理さんに「非行と親の姿勢」と題して寄稿していただきましたのでご紹介します。

第3のピーク 甘えと遊びの非行

少年非行は、現在第三のピークを迎えています。

昭和二十六年ごろが第一のピークで、第二のピークは東京オリンピックが開催された三十九年ごろでした。そして第三のピークは、五十三年ごろからで、現在まで高原状態が続いています。しかもその中で女子による非行が大幅に増加しており、特に性非行に至っては昨年は過去最高となりました。

非行の原因として「豊かさからの親の過保護」「わがままからの非行」が多く、衝動的で罪悪感に欠けた「甘えと遊びの非行」が主流をなしています。

また、少年を取り巻く有害環境も今日大きな社会問題になっており、わいせつ雑誌、賭博ゲーム機セックス産業などは、心身ともに未成熟で発育途上にある少年に直接的、間接的に計り知れない影響



を与えており、大人のモラルが問われるところだ。

家庭での親の姿勢が重要

私は、これまで非行を犯した少年たちの父兄と面接して「いかに家庭における親の姿勢が重要か」ということを痛感しました。「世の中に少年問題はない。あるのは家庭問題だけだ」といわれております。「自分さえよければよい」などという考えを親が持っている、と、いつの間にか子供にもそのよえな考えを植えつけており、また親が物質主義、無秩序な考え方であると子供もそうなっている場合が多いようです。

お母さん方と話していると「あの友だちと付き合ってから悪くなった」とか、「うちの子は人がよくて誘われやすい」と訴えられますが、自分の子供の意志の弱さや、

判断力のないことに気がつかず他人を責めることしかできない親が多いようです。もしこのような環境で育てられたならば、いつでも「自分が悪いのは他人のせいだ」「社会のせいだ」とばかり考え自ら反省することのできない人間になってしまいます。

家庭は人間性を培う道場

家庭は、非行防止の防波堤であり、その中心的な役割を果たしている」といっても過言ではありません。その逆をいえば、家庭が何かによって破壊されている場合、少年たちは問題を起しやすくなり、非行に走りやすくなり、いじめられやすくなります。

家庭は、心のふれあいの場であり、人間性の基本が培われる道場です。家庭で身につけ、訓練されたものの力は大きく、情緒、理性、意志力、良心など人間性の重要な心の動きの基本は家庭で養われます。非行少年といわれる子供たちの多くは、このような基礎訓練ができていない者である、といってもよいと思います。

いけない事は「いけない」といえる親に

親の権威が全く失われている現代、子供の友だちと同等の存在に甘えている父親、過保護で勉強にのみ熱心な母親など、親は子供の教育に自信を失ってしまったかのように思います。

父親にせよ、母親にせよ、子供に對して甘やかすばかりでなく、い

けない事は「いけない」とはつきりいえることのできる親、絶対に子供に負けない親であってほしいと思います。それが子供に信頼される親につながるはずですが、家庭における不平、不満、意見の対立、誤解、葛藤などから子供たちは外にはけ口を求め、いとも簡単に非行へと走っていきます。

子供の本当の姿を知ってほしい

子供のことを一番よく知っているという親こそ、子供の本当の姿を知らないのではないのでしょうか。私が父兄と面接して意外に思うのは、自分の子供がどこで何をしているのかを知っている父親や母親が少ないことに驚きます。そこに親子共通の対話の場が失われ、親は親、子供は子供という生活領域の中で暮らすことになり、

このような両親に限って「自分たちのように父母健全、衣食住世間並みのわが家に問題が起るわけがない」と信じているし、「うちの子に限って」と油断しています。また「子供に理解がある」と自認する親にはわが子を疑う勇気がない。そこに非行を育てる温室的環境が生まれてくるのではないのでしょうか。

特に共働き家庭では経済的に恵まれても精神的な貧困にならないよう、また立派に両親がいながら孤児にさせないよう真剣に考えてほしいと願って止みません。

歳時記

薫風

くんぼう——
青葉若葉をそよがせて吹いて来る初夏のさわやかな南風です。



同じような言葉に、青風というのがあります。このほうがやや強い風のような印象です。

最近、森林浴が人気を集めています。木から発散される、フィトンチッドという物質が、健康に良いそうです。とくに新緑のころはこのフィトンチッドが多いといわれています。薫風にさわやかさを感じさせるのは、このフィトンチッドも関係があるのかもしれない。

香水にも、花の香り(フローラル)のほかに、木の香り(グリーンノート)があり、若い人を中心に人気上昇中です。やはり、緑にあこがれる最近の風潮の反映でしょうか。

薫風をもとめて郊外に出かけるのも楽しいのですが、街にも、もともと薫風を呼びこみたいものです。たとえば、身近な緑化のひとつとして、ブロッケン生垣化などは、見た目に美しいだけでなく、さわやかな薫風を家の中にとりこむことができます。

今月の主な行事

- 1日・メーデー
- 5日・ラジオ体操開始会(桂城小)
- 10日・憲法記念日「記念講演会」
- 13日・市植樹祭(矢立峠)
- 18日・一万本桜健康マラソン大会